



BEA WebLogic Integration™

WebLogic Integration トラブルシューティン グガイド

著作権

Copyright © 2002, BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、**BEA Systems, Inc.** 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「**BEA**」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができません。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、**BEA Systems, Inc.** からの書面による事前の同意なしに、複写、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、**BEA** の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また **BEA** による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、**BEA** は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、**Jolt**、**Tuxedo**、および **WebLogic** は **BEA Systems, Inc.** の登録商標です。**BEA Builder**、**BEA Campaign Manager for WebLogic**、**BEA eLink**、**BEA Manager**、**BEA WebLogic Commerce Server**、**BEA WebLogic Enterprise**、**BEA WebLogic Enterprise Platform**、**BEA WebLogic Express**、**BEA WebLogic Integration**、**BEA WebLogic Personalization Server**、**BEA WebLogic Platform**、**BEA WebLogic Server**、**BEA WebLogic Workshop** および **How Business Becomes E-Business** は、**BEA Systems, Inc** の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社が著作権を有します。

WebLogic Integration *トラブルシューティングガイド*

パート番号	日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2002年6月	7.0

目次

このマニュアルの内容

対象読者.....	vii
e-docs Web サイト.....	viii
このマニュアルの印刷方法.....	viii
関連情報.....	viii
サポート情報.....	ix
表記規則.....	x

1. はじめに

問題の種類.....	1-1
トラブルシューティング用のリソース.....	1-2
WebLogic Server のログ.....	1-3
WebLogic Server Administration Console.....	1-3
Business Process Management のデバッグ.....	1-3
Application Integration ログ.....	1-4
B2B Integration ログ.....	1-4
リリース ノート.....	1-4
製品マニュアル.....	1-4
BEA dev2dev Online.....	1-5
トラブルシューティング FAQ.....	1-5

2. トラブルシューティング FAQ

インストールと準備.....	2-1
リポジトリ データのバルク ロードが失敗した場合どうしたらいいで しょうか.....	2-2
自分が使用している WebLogic Integration のバージョンを確認するには、 どうすればよいでしょうか.....	2-3
システムの IP アドレスを変更したばかりです。ログ ファイルに多数の トランザクション エラーが記録されているのは、なぜでしょうか。. 2-4	
移行.....	2-4
WebLogic Integration の設計時データを別のデータベースへ移植するに	

は、どうすればよいでしょうか。.....	2-4
WebLogic Integration Studio にパッケージをインストールするとワーク フローが実行できないのですが、なぜでしょうか。.....	2-5
サンプルの使用	2-7
BEA dev2dev Online からサンプルをダウンロードしましたが、こちらで インストールした WebLogic Integration では動作しないようです。 対処する方法を教えてください。.....	2-7
サーバの起動	2-7
サーバ起動時に ConnectExceptions が発生するのはなぜですか。.....	2-8
サーバ起動時に「table or view does not exist」というエラーが表示される のはなぜですか。 Oracle データベースを使用しています。.....	2-8
アプリケーションの設計	2-9
WebLogic Integration Studio XML エディタで XML ドキュメントを作成 したときにエラー メッセージが表示されるのはなぜでしょうか。....	2-10
B2B の会話を開始するパブリック ワークフローを開始する方法を教え てください。.....	2-11
ナビゲーション ツリーにエンティティ (トレーディング パートナなど) が表示されていない場合は、どうすればよいでしょうか。.....	2-11
ビジネスプロトコル定義の詳細を参照できない場合はどうしたらよいで しょうか。.....	2-12
WebLogic Integration リポジトリから要素を削除している時に SQL 例外 が出る理由は何ですか。.....	2-12
アプリケーションの実行	2-13
ワークフローを開始するのに必要なワークフロー テンプレート名を Worklist 内で見つける方法を教えてください。.....	2-14
ワークフローの実行においてデバッグとトレースを行う方法を教えてく ださい。.....	2-15
ワークフローを開始すると例外が発生します。インスタンスが作成され ないのはなぜでしょうか。.....	2-16
WebLogic Integration プロセス エンジンが、 JMS キューの一部のメッ セージやイベントを処理しない場合は、どうすればよいでしょ うか。.....	2-17
「resource unavailable」または「Transaction has timed out when making request to XAResource 'WebLogic.jdbc.jts.Connection'」例外が発生し た場合は、どうしたらよいでしょうか。.....	2-18
Application Integration を使用中にイベントの発生で問題が生じた場合は どうすればよいでしょうか。.....	2-19

Business Process Management を使用中に、Application Integration 非同期サービスの応答が失われた場合は、どうしたらよいでしょうか。.....	2-20
B2B エンジンがリモートのトレーディング パートナからのメッセージを受信しません。.....	2-21
一般的な実行時の問題.....	2-23
メモリ エラーを解決する方法を教えてください。.....	2-23
WebLogic Integration ログ メッセージはどこに保存されていますか。.....	2-24
サーバが正常にシャットダウンできません。.....	2-25

索引



このマニュアルの内容

このマニュアルでは、**WebLogic Integration** のデプロイメントにおけるトラブルシューティング方法について説明します。このマニュアルの内容は以下のとおりです。

- 第1章「はじめに」では、**WebLogic Integration** のインストールおよびデプロイメントのトラブルシューティングに使用できるリソースについて説明します。
- 第2章「トラブルシューティング FAQ」では、**WebLogic Integration** のトラブルシューティングに関してよくある質問について説明します。

対象読者

このマニュアルは主に、次のユーザを対象としています。

- 開発およびプロダクション環境で **WebLogic Integration** を設定、デプロイ、および管理するシステム管理者
- 開発およびプロダクション環境で **WebLogic Integration** のデータベース管理システムを設定、デプロイ、および管理するデータベース管理者
- **WebLogic Integration** ワークフローを設計するビジネスアナリスト
- **WebLogic Integration** 上で動作するアプリケーションを作成するアプリケーション開発者
- **WebLogic Integration** とエンタープライズ情報システム (EIS) を統合するアプリケーション統合スペシャリスト

詳細については、『*WebLogic Integration 入門*』を参照してください。

e-docs Web サイト

BEA WebLogic Integration 製品のドキュメントは、BEA Systems, Inc. の Web サイトで入手できます。BEA のホーム ページで [製品のドキュメント] をクリックするか、または「e-docs」という製品ドキュメント ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html>) を直接表示してください。

このマニュアルの印刷方法

Web ブラウザの [ファイル | 印刷] オプションを使用すると、Web ブラウザからこのマニュアルを一度に 1 ファイルずつ印刷できます。

このマニュアルの PDF 版は、WebLogic Integration の Web サイトで入手できます。PDF を Adobe Acrobat Reader で開くと、マニュアルの全体（または一部分）を書籍の形式で印刷できます。PDF を表示するには、WebLogic Integration ドキュメントのホーム ページを開き、[PDF 版] ボタンをクリックして、印刷するマニュアルを選択します。

Adobe Acrobat Reader がない場合は、Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/>) で無料で入手できます。

関連情報

WebLogic Integration の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- *WebLogic Integration 入門*
- *WebLogic Integration チュートリアル*
- *WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ*

-
- 次の URL にある『*WebLogic Server 管理者ガイド*』

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/adminguide/index.html>

サポート情報

WebLogic Integration のドキュメントに関するユーザからのフィードバックは弊社にとって非常に重要です。質問や意見などがあれば、電子メールで **docsupport-jp@bea.com** までお送りください。寄せられた意見については、WebLogic Integration のドキュメントを作成および改訂する BEA の専門の担当者が直に目を通します。

電子メールのメッセージには、ご使用の WebLogic Integration ドキュメントのリリース番号をお書き添えください。

本リリースの WebLogic Integration について不明な点がある場合、または WebLogic Integration のインストールおよび動作に問題がある場合は、BEA WebSUPPORT (websupport.bea.com/custsupp) を通じて BEA カスタマサポートまでお問い合わせください。カスタマサポートへの連絡方法については、製品パッケージに同梱されているカスタマサポートカードにも記載されています。

カスタマサポートでは以下の情報をお尋ねしますので、お問い合わせの際はあらかじめご用意ください。

- お名前、電子メール アドレス、電話番号、ファクス番号
- 会社の名前と住所
- お使いの機種とコード番号
- 製品の名前とバージョン
- 問題の状況と表示されるエラー メッセージの内容

表記規則

このマニュアルでは、全体を通して以下の表記規則が使用されています。

表記法	適用
太字	用語集で定義されている用語を示す。
[Ctrl] + [Tab]	複数のキーを同時に押すことを示す。
斜体	強調または書籍のタイトルを示す。
等幅テキスト	コード サンプル、コマンドとそのオプション、データ構造体とそのメンバー、データ型、ディレクトリ、およびファイル名とその拡張子を示す。等幅テキストはキーボードから入力するテキストも示す。 <i>例</i> <pre>#include <iostream.h> void main () the pointer psz chmod u+w * \tux\data\ap .doc tux.doc BITMAP float</pre>
太字の等幅テキスト	コード内の重要な箇所を示す。 <i>例</i> <pre>void commit ()</pre>
斜体の等幅テキスト	コード内の変数を示す。 <i>例</i> <pre>String <i>expr</i></pre>

表記法	適用
すべて大文字のテキスト	デバイス名、環境変数、および論理演算子を示す。 <i>例</i> LPT1 SIGNON OR
{ }	構文の中で複数の選択肢を示す。実際には、この括弧は入力しない。
[]	構文の中で任意指定の項目を示す。実際には、この括弧は入力しない。 <i>例</i> buildobjclient [-v] [-o name] [-f file-list]... [-l file-list]...
	構文の中で相互に排他的な選択肢を区切る。実際には、この記号は入力しない。
...	コマンドラインで以下のいずれかを示す。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 引数を複数回繰り返すことができる ■ 任意指定の引数が省略されている ■ パラメータや値などの情報を追加入力できる 実際には、この省略記号は入力しない。 <i>例</i> buildobjclient [-v] [-o name] [-f file-list]... [-l file-list]...
.	コード サンプルまたは構文で項目が省略されていることを示す。実際には、この省略記号は入力しない。



1 はじめに

この章では、**WebLogic Integration** のデプロイメントにおけるトラブルシューティング方法の概要について説明します。内容は以下のとおりです。

- 問題の種類
- トラブルシューティング用のリソース

ここでは、一般的なトラブルシューティングのヒントを紹介します。特定の **WebLogic Integration** リリースにおける確認済みの制限事項については、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

問題の種類

次の表では、**WebLogic Integration** のデプロイメントにおいて生じる可能性がある問題全般を、種類別に整理して説明します。

表 1-1 WebLogic Integration のデプロイメントで生じる問題の種類

問題のカテゴリ	問題の種類
アプリケーション上の問題	<ul style="list-style-type: none">■ 構文エラー■ データ エラー■ その他の実行時エラー（ファイルが見つからない、無効なデータなど）
サーバ上の問題	<ul style="list-style-type: none">■ サーバが利用できない■ サービスが利用できない

表 1-1 WebLogic Integration のデプロイメントで生じる問題の種類

問題のカテゴリ	問題の種類
RDMBS 上の問題	<ul style="list-style-type: none">■ データベースが利用できない■ ログオン エラー■ 接続エラー■ SQL エラー
エンタープライズ情報システム上の問題	<ul style="list-style-type: none">■ EIS が利用できない■ ログオン エラー■ 接続エラー■ データ エラー
ハードウェア上の問題	<ul style="list-style-type: none">■ ハードウェアの故障■ ハードウェアのリソースが利用できない
オペレーティング システム エラー	<ul style="list-style-type: none">■ オペレーティング システム エラー
ネットワーク エラー	<ul style="list-style-type: none">■ ネットワークの障害■ ネットワーク リソースが利用できない■ ログオン エラー

トラブルシューティング用のリソース

以下の節では、WebLogic Integration のデプロイメントのトラブルシューティングに使用できるリソースについて説明します。

- WebLogic Server のログ
- WebLogic Server Administration Console
- Business Process Management のデバッグ
- Application Integration ログ
- B2B Integration ログ

- リリース ノート
- 製品マニュアル
- BEA dev2dev Online
- このマニュアルの「トラブルシューティング FAQ」

WebLogic Server のログ

WebLogic Server のログには、実行時ログ メッセージがほぼすべて含まれます。ログ ファイルの場所は、使用しているサーバの config.xml ファイルで指定します。WebLogic Server のログの詳細については、次の URL にある『*WebLogic Server 管理者ガイド*』の「ログ メッセージを使用した WebLogic Servers の管理」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/adminguide/logging.html>

WebLogic Server Administration Console

XML 変換メッセージなどの特定のメッセージは、WebLogic Server Administration Console でのみ表示されます。config.xml ファイルの Server 要素に StdoutEnabled=true StdoutSeverityLevel=64 属性を追加すると、コンソール メッセージの最高トレース レベルを上げることができます。

Business Process Management のデバッグ

次のプロパティを設定することで、デバッグを有効にして WebLogic Server Administration Console にイベントデータをルーティングできます。

```
-Dwli.bpm.server.eventprocessor.debug=1
```

詳細については、WebLogic Integration ドキュメントから「Business Process Management」Web ページを参照してください。

Application Integration ログ

WebLogic Integration は、Application View Management Console と各アダプタのログを個別に維持します。各ログは `domain/logs` ディレクトリに置かれます。`domain` は、現在実行中のドメインの名前になります。Application View Management Console により、『*Application Integration ユーザーズガイド*』の「アプリケーションビューの定義」内、「アプリケーションビューの定義手順サンプル」の「アプリケーションビューのデプロイ」で説明されるように、ロギングレベルをコンフィグレーションできます。

B2B Integration ログ

B2B Integration のアクティビティに関するメッセージは、B2B システム ログファイル (`b2b.log`) および WebLogic Integration B2B Console に書き込まれます。詳細については、『*B2B Integration ログへのメッセージの書き込み*』の「ログへの書き込み」を参照してください。

リリース ノート

『*WebLogic Integration リリースノート*』では、ご使用のバージョンの WebLogic Integration における確認済みの制限事項と回避策について説明します。

製品マニュアル

WebLogic Integration の製品マニュアルは、WebLogic Integration 製品のすべての局面に関する詳細情報を提供します。詳細については、WebLogic Platform パッケージに付属のオンライン マニュアル CD または次の URL を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wli/docs70/index.html>

BEA dev2dev Online

BEA dev2dev Online では、インストール、クラスタ化、JDBC、EJB、サーブレット、および JSP などの技術的な内容に関するニュースグループをはじめとする、さまざまな技術リソースを開発者に提供します。詳細については、次の URL の BEA dev2dev Online を参照してください。

<http://www.beasys.co.jp/developer/index.html>

トラブルシューティング FAQ

一般的な問題のリストについては、2-1 ページの「トラブルシューティング FAQ」を参照してください。

2 トラブルシューティング FAQ

以下の節では、**WebLogic Integration** ソリューションの開発およびデプロイメントにおいて生じる可能性がある問題に関してよくある質問に回答します。

- インストールと準備
- 移行
- サンプルの使用
- サーバの起動
- アプリケーションの設計
- アプリケーションの実行
- 一般的な実行時の問題

各質問は、ユーザが経験する代表的な問題別に分類されています。各節では、1つまたは複数の問題について詳細に説明し、1つ以上の対策を提案し、製品ドキュメントなどのその他の有用な情報の参照先を示します。

ここでは、一般的なトラブルシューティングのヒントを紹介します。特定の**WebLogic Integration** リリースにおける確認済みの制限事項については、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

インストールと準備

この節では、以下の質問に回答します。

- リポジトリ データのバルク ロードが失敗した場合はどうしたらいいでしょうか。
- 自分が使用している **WebLogic Integration** のバージョンを確認するには、どうすればよいでしょうか。

- システムの IP アドレスを変更したばかりです。ログ ファイルに多数のトランザクション エラーが記録されているのは、なぜでしょうか。

リポジトリ データのバルク ロードが失敗した場合はどうしたらいいでしょうか。

問題点 B2B Integration での作業中、WebLogic Integration サンプルの実行前など特定の状況下では、WebLogic Integration リポジトリにデータをバルク ロードすることが求められます。リポジトリへのバルク ロードを実行しようとした後にエラーメッセージが表示された場合、バルク ロードのプロセスは正常に実行できていません。

解決策 エラー メッセージを確認して、エラーの原因を判断します。次にエラーを修正して、バルク ロード処理を再度実行します。バルク ロードはトランザクション対応ではないため、データのバルク ロードをやり直す前に、データベースを完全にクリーンアップすることをお勧めします。

バルク ロード中に生じる可能性があるエラーには、次のようなものがあります。

- データ挿入先として指定したテーブルが存在しない。
バルク ロード文とリポジトリ スキーマが一致していません。この問題に対処するには、(1) バルク ロード データ ファイルが正しいこと (2) リポジトリが最新の完全なものであること (3) リポジトリ スキーマのバージョンが正しいこと、を確認してください。
- リポジトリに、定義済みの項目（会話など）がある。
バルク ロード データが、既存のリポジトリ情報と競合しています。現在のバルク ロード データ ファイルを訂正するか、リポジトリから古い情報を削除してください。

詳細については、『*B2B Integration 管理者ガイド*』の「Bulk Loader の使い方」を参照してください。

自分が使用している WebLogic Integration のバージョンを確認するには、どうすればよいでしょうか。

問題点 インストールされている WebLogic Integration のバージョンを調べる方法が分かりません。

解決策 WebLogic Integration をインストールしてある、BEA ホーム ディレクトリの registry.xml ファイルを参照してください。registry.xml ファイルには、以下に類似した XML セグメントが含まれています。

```
<bea-product-information>
  <host home="c:\bea" name="hostname" number="1">
    <product format="1.0" name="WebLogic Platform">
      <release BeaProgramGroup="BEA WebLogic Platform 7.0"
BuiltInServicePackLevel="0" InstallDir="c:\bea\weblogic700" InstallTime="Jun 6,
2002 4:57:18 PM" JavaHome="c:\bea\jdk131_03" JavaVersion="1.3.1_03"
PatchLevel="1" ServicePackLevel="0" Status="installed" level="7.0">
        <component name="WebLogic Server" version="7.0.0.1">
          <component name="Server"/>
          <component name="Server Examples"/>
        </component>
        <component name="WebLogic Integration" version="7.0.0.0">
          <component name="Integration Server"/>
          <component name="Integration Examples"/>
        </component>
      </release>
    </product>
  </host>
</bea-product-information>
```

リリース要素（<release... で始まるテキスト）を調べます。この要素は、現在インストールされている WebLogic Integration のリリースおよびサービス パックの番号を示します。

システムの IP アドレスを変更したばかりです。ログファイルに多数のトランザクション エラーが記録されているのは、なぜでしょうか。

問題点 IP アドレスを変更すると、トランザクション ログ エラーが多く発生する原因となります。

解決策 古いトランザクション ログ ファイルを削除します。詳細については、次の URL にある『*WebLogic JTA プログラマーズ ガイド*』の「トランザクションのトラブルシューティング」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/jta/trbtrx.html>

移行

この節では、以下の質問に回答します。

- WebLogic Integration の設計時データを別のデータベースへ移植するには、どうすればよいでしょうか。
- WebLogic Integration Studio にパッケージをインストールするとワークフローが実行できないのですが、なぜでしょうか。

WebLogic Integration の設計時データを別のデータベースへ移植するには、どうすればよいでしょうか。

問題点 WebLogic Integration の設計時データを別のデータベースへ移植したい場合があります。そのような移行が必要となるのは、たとえば WebLogic Integration の新規リリースをインストールする場合や、データベースの種類を変更する場合です。

解決策 設計時データを別の WebLogic Integration リポジトリ データベースへ移行するには、ソース データベースからすべての設計時データをエクスポートし、対象のデータベースにインポートします。手順の詳細については、『*WebLogic Integration 移行ガイド*』および『*WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ*』の「WebLogic Integration のカスタマイズ」にある「ドメインに対する新しいデータベースの指定」を参照してください。

WebLogic Integration Studio にパッケージをインストールするとワークフローが実行できないのですが、なぜでしょうか。

問題点 以前エクスポートしたパッケージを WebLogic Integration Studio にインポートすると、インポートしたワークフローが正しくインスタンス化されなかったり、実行時エラーが発生したりすることがあります。

解決策 以下の解決策が考えられます。

- パッケージをインポートする際に、使用するワークフローを必ずアクティブ化してください。アクティブでないワークフローは、意図どおりにインスタンス化されません。[パッケージのインポート] ダイアログ ボックスの [インポート後にワークフローをアクティブ化] オプションを選択するか、またはワークフロー テンプレート 定義プロパティのダイアログ ボックスを開いて [アクティブ] オプションを選択することにより、目的のワークフローを手動でアクティブ化しておきます。
- ワークフローのインポート後、開始ノードにおける開始オーガニゼーションをリセットしてください。
- **Application Integration** のアプリケーション ビューが使用されるワークフローを実行中に例外が発生した場合は、そのワークフローで使用されるアプリケーション ビューをデプロイ済みであることを確認してください。
WebLogic Integration Studio のインポート機能で、自動的にアプリケーション ビューがデプロイされることはありません。Application View Console (<http://host:port/wlai> で使用可能) を使用して、アプリケーション ビューをデプロイする必要があります。詳細については、『*Application Integration ユーザーズ ガイド*』の「アプリケーション ビューの定義」を参照してください。

- **B2B** 統合に関連するワークフローを使用中に例外が発生した場合は、『*B2B Integration 管理者ガイド*』の「Bulk Loader の操作」で説明しているように、リポジトリに設計時データを正しくバルク ロード 済みであることを確認してください。
- ドメインに対して、startWebLogic コマンドで `wli.bpm.server.evaluator.supportsNull` を **true** に設定した場合は、ワークフローを再検査し、ワークフロー変数の初期値が適切に設定されていることを確認してください。これらの変数が設定されておらず、このフラグの設定が **true** である場合、ワークフローが実行できないことがあります。デフォルト値は **false** なので、この問題が生じたということは、以前に自分でこの値を明示的に設定しているはずですが、詳細については、『*WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ*』の「WebLogic Integration のカスタマイズ」にある「NULL 変数をサポートする BPM のコンフィグレーション」を参照してください。

サンプルの使用

この節では、次の質問に回答します。

BEA dev2dev Online からサンプルをダウンロードしましたが、こちらでインストールした WebLogic Integration では動作しないようです。対処する方法を教えてください。

BEA dev2dev Online からサンプルをダウンロードしましたが、こちらでインストールした WebLogic Integration では動作しないようです。対処する方法を教えてください。

- 問題点** 製品に同梱されているサンプルはご使用の WebLogic Integration と互換性がありますが、BEA dev2dev Online から入手可能なサンプルは、すべてが現行リリース用に更新されているわけではありません。上位互換性のないサンプルもあります。
- 解決策** ダウンロードしたサンプルのドキュメントを読み、ご使用の環境（プラットフォーム、WebLogic Integration のリリース、および WebLogic Server のバージョン）における全コンポーネントが、このサンプルでサポートされているかどうかを検証します。

サーバの起動

この節では、以下の質問に回答します。

- サーバ起動時に `ConnectExceptions` が発生するのはなぜですか。
- サーバ起動時に「table or view does not exist」というエラーが表示されるのはなぜですか。Oracle データベースを使用しています。

サーバ起動時に **ConnectExceptions** が発生するのはなぜですか。

問題点 サーバ起動時に、次の例外メッセージが表示されます。

```
a routed: 'Protocol: 't3'' connection
to: 'OS:172.16.3.18:[7001,-1,-1,-1,-1,-1]' on port: '7001'
java.rmi.ConnectException: No available router to destination
. . .
```

解決策 ログディレクトリから *.tlog ファイルを削除します。この問題がサーバ上の IP アドレスを変更した結果生じたものである場合は、「システムの IP アドレスを変更したばかりです。ログファイルに多数のトランザクション エラーが記録されているのは、なぜでしょうか。」を参照してください。

この問題がプロダクションサーバ上で生じたものである場合は、トランザクション ログ ファイルを削除する前に、必ずこれらのファイルのアーカイブを作成してください。これらのファイルには、サーバの障害時に処理中だったトランザクションに関する情報が含まれているためです。

サーバ起動時に「**table or view does not exist**」というエラーが表示されるのはなぜですか。Oracle データベースを使用しています。

問題点 Oracle データベースで稼動するサーバの起動時に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
####<Aug 30, 2001 12:40:52 PM GMT-08:00> <Alert> <JMS> <fushigi.beasys.com>
<myserver> <main> <system> <> <040052> <JMSServer "WLA
I_JMSServer", store failed to open, java.io.IOException: JMS JDBC store,
connection pool = <wliPool>, prefix = <null>: JMS JDBC I/
O failure
java.sql.SQLException: ORA-00942: table or view does not exist

at oracle.jdbc.dbaccess.DBError.throwSQLException(DBError.java:114)
at oracle.jdbc.ttc7.TTIoer.processError(TTIoer.java:208)
at oracle.jdbc.ttc7.Oall7.receive(Oall7.java:542)
```

```
at oracle.jdbc.ttc7.TTC7Protocol.doOall7(TTC7Protocol.java:1311)
at
oracle.jdbc.ttc7.TTC7Protocol.parseExecuteDescribe(TTC7Protocol.java:595)
at
oracle.jdbc.driver.OracleStatement.doExecuteQuery(OracleStatement.java:1600)
at
oracle.jdbc.driver.OracleStatement.doExecute(OracleStatement.java:1758)
at
oracle.jdbc.driver.OracleStatement.doExecuteWithTimeout(OracleStatement.java
:1805)
at
oracle.jdbc.driver.OracleStatement.executeQuery(OracleStatement.java:410)
at weblogic.jdbc.pool.Statement.executeQuery(Statement.java:48)
at
```

解決策 このエラーが発生するのは、片方が別のユーザまたはスキーマに属する同一名の2つのテーブルを JMS が見つけた場合です。各 JMSJDBCStore テーブルに、一意の名前を割り当ててください。config.xml ファイルの JMSJDBCStore 行を、次の例に類似した行に変更します。

```
<JMSJDBCStore ConnectionPool="wliPool" Name="wliPool"
PrefixName="someunique" />
```

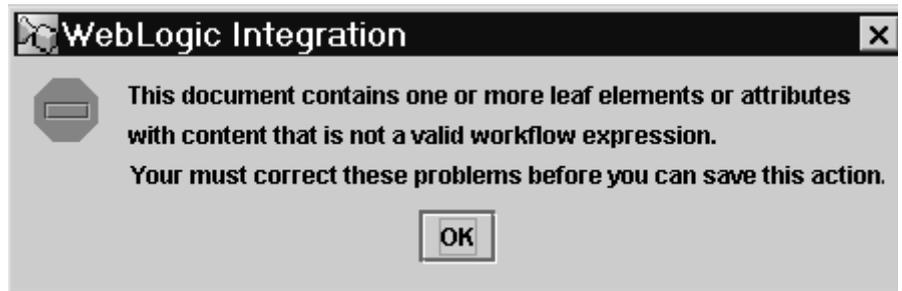
アプリケーションの設計

この節では、以下の質問に回答します。

- WebLogic Integration Studio XML エディタで XML ドキュメントを作成したときにエラー メッセージが表示されるのはなぜでしょうか。
- B2B の会話を開始するパブリック ワークフローを開始する方法を教えてください。
- ナビゲーション ツリーにエンティティ（トレーディング パートナなど）が表示されていない場合は、どうすればよいでしょうか。
- ビジネス プロトコル定義の詳細を参照できない場合はどうしたらよいでしょうか。
- WebLogic Integration リポジトリから要素を削除している時に SQL 例外が出る理由は何ですか。

WebLogic Integration Studio XML エディタで XML ドキュメントを作成したときにエラーメッセージが表示されるのはなぜでしょうか。

問題点 WebLogic Integration Studio XML エディタで正規の XML ドキュメントを作成するときに、インスタンス エディタで次のメッセージが表示されることがあります。



解決策 インスタンス エディタの右ペインに表示される値がすべて、有効な式であることを確認してください。インスタンス エディタは、エラーのある行に X アイコンを表示して、無効な式構文のある値を示します。値が `string` 型定数の場合は、文字列リテラルの前後に二重引用符を付加してください。これ以外の型の値の有効な式を作成する方法については、『*WebLogic Integration Studio ユーザーズ ガイド*』を参照してください。

問題点 正規の XML ドキュメントを WebLogic Integration Studio XML エディタにインポートするときに、インスタンス エディタがエラー メッセージを表示して、ドキュメントを有効なテンプレート ドキュメントに変換するよう求めることがあります。

解決策 [はい] をクリックして、ドキュメントをテンプレート ドキュメントに変換します。

B2B の会話を開始するパブリック ワークフローを開始する方法を教えてください。

問題点 B2B の会話を開始するワークフローを開始する必要があります。

解決策 B2B の会話を開始するワークフローを開始するには、別のワークフローからパブリック ワークフローを開始アクションを使用します。Java アプリケーション内からパブリック ワークフローを開始するには、API を使用することもできます。パブリック ワークフローを開始 によってもたらされる入力パラメータでコラボレーション アグリーメントが決定され、コラボレーション アグリーメントによって会話が決定されます。この会話には、ワークフロー テンプレート名が含まれます。

問題点 パブリック ワークフローを開始アクションを使用してもワークフローが開始されません。

解決策 一般的なエラー：

- ワークフロー テンプレートのオーガニゼーションが、WebLogic Integration リポジトリの会話定義と整合していません。
- 有効なトレーディング パートナ名を引用符で囲んで入力していません。

ナビゲーション ツリーにエンティティ（トレーディング パートナなど）が表示されていない場合は、どうすればよいでしょうか。

問題点 WebLogic Integration B2B Console のナビゲーション ツリーにリストされているはずのエンティティが見つかりません。

解決策 次の手順を実行してください。

1. ナビゲーション ツリーの **WLI B2B** ノードをクリックします。
2. [コンフィギュレーション] タブを選択します。

3. [プリファレンス] タブを選択します。
4. ナビゲーションツリーの [表示] エンティティを選択します。
5. [適用] をクリックします。

ビジネス プロトコル定義の詳細を参照できない場合はどうしたらよいでしょうか。

問題点 WebLogic Integration B2B Console のナビゲーション ツリーにビジネスプロトコル定義の詳細が表示されません。

解決策 次の手順を実行してください。

1. ナビゲーションツリーの WLI B2B ノードをクリックします。
2. [コンフィグレーション] タブを選択します。
3. [プリファレンス] タブを選択します。
4. [高度なコンフィグレーション コントロールを表示] を選択します。
5. [適用] をクリックします。

WebLogic Integration リポジトリから要素を削除している時に SQL 例外が出る理由は何ですか。

問題点 リポジトリから要素を削除していると、同様の SQL 例外が発生します。

```
Exception:ERROR: In SQLHelper.execute(), a SQL Exception was caught while
executing a SQL Statement: SQL Exception: DELETE on table 'PARTY_IDENTIFIER'
caused a violation of foreign key constraint
'15b58164-00e8-4d2f-8ace-00ac100b2400' for key (27). The statement has been
rolled back.
com.bea.b2b.management.ManagementException: ERROR: In SQLHelper.execute(), a SQL
Exception was caught while executing a SQL Statement: SQL Exception: DELETE on
table 'PARTY_IDENTIFIER' caused a violation of foreign key constraint
'15b58164-00e8-4d2f-8ace-00ac100b2400' for key (27). The statement has been
```

```
rolled back.  
... <remainder of stack trace not shown> ...
```

解決策 このような SQL 例外は、他のリポジトリの要素が参照しているリポジトリ要素を削除しようとするが発生します。この例外が発生するのは、現在コラボレーション アグリーメントに参与しているトレーディング パートナを削除しようとした場合です。そのようなトレーディング パートナを削除すると、データベース参照制約違反が発生します。トレーディング パートナを削除する前に、このトレーディング パートナが含まれているコラボレーション アグリーメントを削除するか、トレーディング パートナの参照をコラボレーション アグリーメントから削除します。リポジトリ要素の関連性とリポジトリ要素間の参照の削除については、『*B2B Integration 管理者ガイド*』の「リポジトリの操作」を参照してください。

アプリケーションの実行

この節では、以下の質問に回答します。

- ワークフローを開始するのに必要なワークフロー テンプレート名を **Worklist** 内で見つける方法を教えてください。
- ワークフローの実行においてデバッグとトレースを行う方法を教えてください。
- ワークフローを開始すると例外が発生します。インスタンスが作成されないのはなぜでしょうか。
- **WebLogic Integration** プロセス エンジンが、**JMS** キューの一部のメッセージやイベントを処理しない場合は、どうすればよいでしょうか。
- 「resource unavailable」または「Transaction has timed out when making request to XAResource 'WebLogic.jdbc.jts.Connection!」例外が発生した場合は、どうしたらよいでしょうか。
- **Application Integration** を使用中にイベントの発生で問題が生じた場合はどうすればよいでしょうか。
- **Business Process Management** を使用中に、**Application Integration** 非同期サービスの応答が失われた場合は、どうしたらよいでしょうか。

- B2B エンジンがリモートのトレーディング パートナからのメッセージを受信しません。

ワークフローを開始するのに必要なワークフローテンプレート名を Worklist 内で見つける方法を教えてください。

問題点 ワークフローを開始するには、WebLogic Integration Studio 内にワークフローテンプレートを作成した後、Worklist ユーザ インタフェースを使用します。しかし、ワークフローを開始する必要があるときに、Worklist 内でワークフローテンプレートが見つかりません。

解決策 次の手順のうち 1 つ以上を実行します。

- ワークフローを WebLogic Integration Studio に保存したことを確認します。
- ワークフローテンプレートをアクティブ化したことを確認します。
- Worklist にログインしているユーザは複数のオーガニゼーションに属している場合があります。ユーザが割り当てられているオーガニゼーション、つまり、テンプレートに関連しているオーガニゼーションに切り換えてください。
- 手動で開始可能なワークフローであることを確認します。

追加情報 「WebLogic Integration Studio ユーザーズガイド」および「WebLogic Integration Worklist ユーザーズガイド」を参照。

注意： Worklist クライアントは WebLogic Integration リリース 7.0 より非推奨となりました。代替機能に関する情報については、『BEA WebLogic Integration リリースノート』を参照してください。

ワークフローの実行においてデバッグとトレースを行う方法を教えてください。

問題点 ワークフローが正常に動作していない理由がなかなか判断できません。

解決策 ワークフローの実行をトレースすると、問題の原因を判断し、解決策を示すのに役立ちます。ワークフローのインスタンスの実行をデバッグまたはトレースする方法は、いくつかあります。

- タスクアクションで、トレーシングメッセージを印刷します。これには `java.lang.System.println()` 文が使われているビジネスオペレーションを使用します。このオプションは、高速で実行され、既に説明した方法ではデバッグできないワークフローインスタンスをデバッグするのに効果的です。
- タスク内で監査アクションを使用して、監査トピックに対し監査情報を出力します。監査エントリは、サーバ上でアクティブになっている **WebLogic Integration** ドメインの `logs` ディレクトリにある `myserver.log` という名称のログファイルで見ることができます。また、このアクションを実行するには、事前にテンプレート定義のプロパティで監査を有効にする必要があります。
- 電子メールサーバが正しく設定されている場合は、テストの必要な時点ごとに自分宛ての電子メールを送信してください。
- 監査エントリアクションに加えて、テストしたい各時点において **Set Workflow** コメントアクションを使用することもできます。コメントは、前述の [ワークフローインスタンス] ダイアログボックス内に表示されます。
- **WebLogic Integration Studio** で、ワークフローインスタンスモニタを開き、変数とワークフローのステータスを確認します。ワークフローインスタンスモニタに、ワークフローインスタンスの変数の現在の状態が表示され、ワークフローインスタンスのどのタスクが現時点で実行済みであるかが示されます。ワークフローがユーザ入力または非同期イベントを待機する必要がある場合は、所定の期間、実行が停止されます。この期間中に、ワークフローインスタンスの詳細を調査することができます。

ワークフローがインスタンス化された後、停止することなく実行される場合は、変数の状態とアクティブなタスクが急速に変化する可能性があるため、このデバッグ手法の効果が薄れることがあります。

ワークフロー中の、変数および実行されているタスクを表示するのに十分な期間、実行を停止したい個所では、できるだけ **Assign task to user** アクションを使用してください。この停止機能により、**Worklist** ツールを使い、順を追ってワークフローの実行を確認できます。各手順で、ワークフローを次の手順に進めるために、**Worklist** ツールを使用可能です。

注意： **Worklist** クライアントは **WebLogic Integration** リリース 7.0 より非推奨となりました。代替機能に関する情報については、『*BEA WebLogic Integration* リリース ノート』を参照してください。

この方法でワークフローの実行を停止できない場合は、別のデバッグ方法を試してください。

追加情報 『*WebLogic Integration Studio ユーザーズガイド*』の **assign task to user** アクションおよび **make audit entry** アクションに関するドキュメントと、『*BPM クライアント アプリケーションプログラミング*』の **ビジネス オペレーション** に関するドキュメントを参照してください。

ワークフローを開始すると例外が発生します。インスタンスが作成されないのはなぜでしょうか。

問題点 ワークフローで例外が発生しますが、このワークフローがインスタンス化されたということを示すワークフロー インスタンスは存在しません。

解決策 ワークフロー インスタンスが作成され、データベース内で保持されるのは、ワークフローが静止状態になるか、完了ノードに到達した後のみです。ワークフローが、静止状態または完了ノードに到達する前に例外が発生すると、ワークフロー インスタンスはロールバックされます。この問題を解消するには、ワークフロー インスタンスを待機させる **No Operation** または **Assign Task to User** などのアクションを挿入することで、強制的に静止状態をもたらします。

追加情報 『*WebLogic Integration Studio ユーザーズガイド*』および『*BPM クライアント アプリケーションプログラミング*』の「**BPM トランザクション モデル**」を参照してください。

WebLogic Integration プロセス エンジンが、JMS キューの一部のメッセージやイベントを処理しない場合は、どうすればよいでしょうか。

問題点 JMS キューにポストされたイベントまたはメッセージが、WebLogic Integration プロセス エンジンで処理されないようです。

解決策 以下の解決策のうち任意のものを試してください。

- 必ず、正しい JMS キューにメッセージをパブリッシュしてください。プロセス エンジンは、`com.bea.wlpiEventQueue` にサブスクライブします。
- プロセス エンジンがイベントを処理したときに、イベント ノードの後で実行された手順において、障害が発生しています。**WebLogic Integration** はトランザクションをロールバックして、ワークフロー インスタンスをイベント待機状態に戻しました。その後の手順で生じる問題について、ワークフローを調べます。
- イベント発生側において、トランザクション内でイベントをパブリッシュしましたが、そのトランザクション内でエラーが発生しました。**WebLogic Integration** が送信側のトランザクションをロールバックする場合、そのイベントはパブリッシュされません。サーバログで、トランザクションに関連するエラー メッセージを確認する必要があります。ワークフロー内でこの問題が生じた場合は、オプションとして、トランザクションがコミットしたかどうかに関係なくメッセージをすぐに送信できます。
- **WebLogic Integration** では、対応するテンプレートおよびインスタンスをイベントと一致させられませんでした。代わりに、アドレス指定されたメッセージを使用してください。アドレス指定されたメッセージを使うと、イベントを受信するワークフロー インスタンスを明示的に指定できるため、メッセージを一致させられない可能性が少なくなります。この問題を完全に解消するには、アプリケーション実装時に、回復またはメッセージ再送信のメカニズムを適用します。

アドレス指定メッセージ送信を使用してメッセージ配信を保証する方法については、次を参照してください。

- 『*WebLogic Integration ソリューションのデプロイメント*』の「パフォーマンスのチューニング」の「メッセージ配信の保証」

- 『BPM クライアント アプリケーション プログラミング』の「JMS 接続の確立」の「メッセージ配信の保証」
- 『WebLogic Integration Studio ユーザーズ ガイド』の「アクションの定義」の「JMS トピックまたはキューへの XML メッセージのポスト」

「resource unavailable」または「Transaction has timed out when making request to XAResource 'WebLogic.jdbc.jts.Connection'」例外が発生した場合は、どうしたらよいでしょうか。

問題点 以下の例外の一方が発生します。

- resource unavailable
- Transaction has timed out when making request to XAResource 'WebLogic.jdbc.jts.Connection'

解決策 これらのエラーは、アプリケーションで必要とされる接続数が、接続プールで割り当てた接続数を上回っていることを示していると考えられます。エラーが発生するのは、WebLogic Integration リポジトリ プール、またはアプリケーションビューのアプリケーション統合接続ファクトリ プールで、プールを使い切ったためである可能性があります。

どれが使い切ったプールであるかを判断するには、例外スタック トレースを確認します。スタック トレース内に、`xxxConnectionFactory.getConnection()` などの名前の付いたクラスが見つければ、接続ファクトリ プールを使い果たしていると考えられます。例外メッセージは多くの場合、使い果たしたプールを指し示しています。スタック トレースにそのようなクラスがなければ、JDBC 接続プールを使い果たしていると考えられます。

どちらの種類のパールでも、予想される最大の同時アクティブ ユーザ数を推定し、その数を 2 で乗算して、得られた数値をプール内の Max Capacity の値として使用します。JDBC 接続プールの場合は、`config.xml` ファイルの `JDBCConnectionPool` 要素を修正します。アプリケーション ビューの接続ファクトリ プールの場合は、Application View Console を使用してアプリケーションビューの接続パラメータ セクションを編集し、Max Capacity 値を設定します。

接続ファクトリの Max Capacity を設定しても問題が解決しない場合は、アダプタ デプロイメント ユニットの最大容量を増やします。これを行うには、アダプタの RAR ファイル（場所はアダプタのアプリケーション要素内にある、サーバの config.xml ファイルに記載）を見つけて、weblogic-ra.xml のデプロイメント記述子を編集します。これはアーカイブの META-INF ディレクトリに入っています。

注意： weblogic-ra.xml ファイルを編集するには、アーカイブを展開し、ファイルを編集してから、jar コマンドでアーカイブを作成します。
weblogic-ra.xml ファイルの pool-params 要素における max-capacity 要素の値を増やしてください。

Oracle を使用している場合は、データベースのブロック サイズを確認します。ブロック サイズが 2K であれば、データベースを 8K のブロック サイズで再構築します。

また、各トランザクションが空いているデータベース接続を取得するまでに長時間待機しなくてもよいように、ThreadPoolSize および JDBC 接続プールのサイズを適切なレベルに調節することもできます。ほとんどの場合、JDBC 接続プールは ThreadPoolSize の 2 倍のサイズにする必要がありますが、適切なサイズはアプリケーションのニーズによって変わります。

Application Integration を使用中にイベントの発生で問題が生じた場合はどうすればよいでしょうか。

問題点 イベント定義を含むアプリケーション ビューを定義してデプロイしましたが、WebLogic Integration Application View Console でイベントテスト機能を使用してもイベントを受け取れません。

解決策 この問題の原因としては、以下のものが考えられます。

- イベント アダプタが正常に起動しませんでした。イベント アダプタで何らかのエラーが発生していないか判断するには、アダプタのログ ファイルを確認してください。起動時にエラーが発生しても、イベント アダプタは Application View Console 内の Web アプリケーションとして表示され、デブ

ロイされたように認識されます。しかし、エラーが生じた場合、イベントアダプタは動作不能になることがあります。イベントアダプタ ログ ファイルは通常、サーバ上でアクティブになっている **WebLogic Integration** ドメインの logs ディレクトリにあります。

- 受信を想定しているイベントを生成しようとしたときに、イベントアダプタでエラーが発生します。イベントアダプタのログファイルで、エラーの有無を確認します。イベントアダプタ ログ ファイルは通常、サーバ上でアクティブになっている **WebLogic Integration** ドメインの logs ディレクトリにあります。
- 使用しているイベントアダプタが所定の EIS のための唯一のイベントアダプタではなく、他のイベントアダプタによりイベントを奪われている可能性があります。

一般にイベントアダプタは、ある EIS インスタンス専用であり、その EIS インスタンスが有するイベントアダプタは1つであることが前提となっています。BEA DBMS アダプタの場合、所定のデータベース（および EVENT/EVENT_DATA テーブルのセット）を指すイベントアダプタが複数あると、1つのイベントアダプタが生成されたイベントをすべて受信し、他のイベントアダプタにはイベントを渡しません。イベントを受信するアダプタが事前に決められることはないので、特定のアダプタが、ある時はイベントを取得し、別の時には取得しないということがあり得ます。EIS インスタンスを指しているイベントアダプタは、必ず1つだけにしてください。

Business Process Management を使用中に、Application Integration 非同期サービスの応答が失われた場合は、どうしたらよいでしょうか。

問題点 WebLogic Integration Studio で、Application Integration の機能を使用してサービスを非同期に呼び出すワークフローを指定します。ワークフロー内では、サービス呼び出しのためのタスク ノードと、サービスから応答を受信するためのイベント ノードを定義します。しかし、実行時に応答イベントが受信されません。

解決策 この問題が生じるのは、タスク ノードと、非同期応答のためのイベント ノードの間で、有意な量のロジック設計が行われていない場合です。この場合、WebLogic Integration プロセス エンジン内で競合状況が発生し、エンジンがイベ

ントを認識できない可能性があります。応答が BPM イベント キューに受け取られたかどうかを判断するのは、困難です。BPM イベント キューを監視し、非同期サービスを呼び出すタスクを含むワークフローを実行した結果メッセージ カウントが増加したかどうかを判断するには、**WebLogic Server Administration Console** を使用します。この問題を解消するには、タスク ノードと非同期サービスのためのイベント ノードの間のタスクに **No Operation** を追加します。No Operation を追加することで、ワークフロー インスタンスの処理にわずかな遅延がもたらされます。

B2B エンジンがリモートのトレーディング パートナからのメッセージを受信しません。

問題点 1 つまたは複数の B2B 配信チャネル (URL) で通信を確立できません。このような問題は、B2B に対して HTTP/HTTPS サブシステムが正しく設定されていないことが原因で発生します。

解決策 次の手順で解決します。

1. 配信チャネルの URL をブラウザに入力し、[Enter] を押します。

エラーが表示されるか、**WebLogic Integration** ログ ファイルに無効なプロトコルフォーマットであるという B2B からのエントリがあれば、HTTP/HTTPS サブシステムは正しく設定されています。どちらのイベントも発生しない場合は次に進みます。

2. アプリケーションサーバから、404 や 500 から 599 までのエラー コードを受け取った場合、デフォルトの web.xml ファイルで `TransportServletFilter` が設定されているか確認します。

`TransportServletFilter` が設定されていれば、web.xml には次の例のような行が含まれています。

```
<!-- WLI-B2Bi filter-begin. DO NOT EDIT -->
<filter>
<filter-name>TransportServletFilter</filter-name>
<filter-class>com.bea.b2b.transport.http.TransportServletFilter
</filter-class>
</filter>

<filter-mapping>
```

```
<filter-name>TransportServletFilter</filter-name>
<url-pattern>/*</url-pattern>
</filter-mapping>
<!-- WLI-B2Bi filter-end. -->
```

このような行が無ければ、TransportServletFilter が正しくありません。TransportServletFilter の設定に関する詳細については、『*WebLogic Integration 移行ガイド*』の「WebLogic Integration 2.1 から WebLogic Integration 7.0 への移行」にある「B2B 転送サーブレット」を参照してください。

これらの行があれば、次へ進みます。

3. ドメインのコンフィグレーションファイルである config.xml に

<Application> 要素の次の属性が含まれているか確認します。

- "WebLogic Integration" — この属性が WebLogic Integration で動作していなければなりません。
- Deployed="true" — 次の例に示すように、この属性がデプロイする WebLogic Integration アプリケーションに対して true に設定されていなければなりません。

```
<Application Deployed="true" Name="WLIApplication"
Path="%WLI_HOME%\lib" TwoPhase="true">
```

デプロイされた属性が false に設定されていると、WebLogic Integration アプリケーションがあってもデプロイされていることにはならず、問題の原因となります。

- Name="TransportServlet" — この属性が <WebAppComponent> サブ要素に対して指定されていることが必要です。
- Targets="servername" — この属性も <WebAppComponent> サブ要素に含まれていることが必要です。これは、次の例で示すように、選択した WebLogic Integration サーバの名前を指定します。

```
<WebAppComponent Name="TransportServlet" Targets="myserver"
URI="b2b.war"/>
```

サーバ名が存在しないか不正であれば、問題の原因となります。

解決策のすべての手順を実行しても通信に問題が発生する場合は、HTTP/HTTPS 通信チャネル自体は問題の原因ではないと考えられます。WebLogic Integration の次のリポジトリを調べてみてください。

- リポジトリが存在しているか、タイプミスを含んでいないか。

- サーバリスン アドレスとポートが正しく指定されているか。
- 適切なビジネス プロトコルが正しく設定されているか。
- 配信チャネルが正しくしていされているか、使用可能になっているか。
- トレーディング パートナが適切で、有効であるか。

一般的な実行時の問題

この節では、以下の質問に回答します。

- メモリ エラーを解決する方法を教えてください。
- WebLogic Integration ログ メッセージはどこに保存されていますか。
- サーバが正常にシャットダウンできません。

メモリ エラーを解決する方法を教えてください。

問題点 プログラム内のメモリ割り当て要求量が、JVM ヒープの空き領域のサイズを超えると、Java アプリケーションで `out of memory` エラーが発生します。現在実行中の Java プロセスを終了し、アプリケーションを再起動する必要があります。`out of memory` エラーを完全に排除することはできませんが、以下の解決策によって、このエラーの発生率を下げることはできます。

解決策 JVM 内の空き領域を増やし、要求量を減らします。特に、以下の手順を実行するとよいでしょう。

- 最大ヒープ サイズを増やします。推奨ヒープ サイズは **384 MB** です。どのような場合も、物理メモリ サイズよりは小さくしてください。そうしないと、パフォーマンスを著しく低下させるメモリ スワッピングが必要になります。
- Java ガベージ コレクション (GC) の効果を上げます。-Xincgc java コマンドを使用して、ガベージ コレクションの頻度を調節してください。ただ

し、適切な頻度は、アプリケーションによって異なります。GC を頻繁に実行しすぎると、プログラムが滞留して、ヒープが縮小されます。

- 不必要な要求はできる限り低減してください。自分が使用しているアプリケーションから、要求量を制御できます。MSSQL または Oracle のデータベースを使う場合は、従来の JVM の代わりに Java HotSpot JVM を使用してください。
- JMS を使用している場合は、実行中、常にメモリ内にメッセージを保持する必要がないように、永続的なもの（ファイルベースまたは DBMS ベース）にします。

WebLogic Integration ログ メッセージはどこに保存されていますか。

問題点 WebLogic Integration ログ メッセージが見つけれられません。

解決策 次の手順で、WebLogic Integration ログ メッセージの場所を特定します。

- WebLogic Server のログ ファイル内を調べます。このログ ファイルには、ほぼすべての実行時ログ メッセージが格納されています。ログ ファイルのパス名は、サーバの `config.xml` で確認してください。
- WebLogic Server Administration Console を調べます。XML 変換メッセージなど、一部のメッセージは、このコンソールにのみ表示されます。`config.xml` ファイルの **Server** 要素に `StdoutEnabled=true` `StdoutSeverityLevel=64` 属性を追加すると、コンソール メッセージの最高トレース レベルを上げることができます。
- 以下のコンポーネント固有のログ ファイルを確認します。
 - Application Integration の場合は、WebLogic Integration Application View Console と各アダプタ用に、個別のログが維持されます。各ログは `domain/logs` ディレクトリに置かれます。`domain` は、現在実行中のドメインの名前になります。
 - WebLogic Integration プロセス エンジンの場合は、イベント データを WebLogic Server Administration Console にルーティングする

-Dwli.bpm.server.eventprocessor.debug=1 プロパティを設定できません。

サーバが正常にシャットダウンできません。

問題点 stopWeblogic コマンドを実行後、次のエラー メッセージが表示されます。

```
<Oct 12, 2001 6:24:00 PM PDT> <Critical> <WebLogicServer> <Failed  
to invoke shutdown class  
"WLCShutdown", java.lang.IllegalArgumentException>
```

解決策 この問題は、WebLogic Server のバグとして確認済みです。B2B エンジンを停止してから再起動する際、同時に WebLogic Server も停止および再起動しなかった場合に、発生します。このバグが生じた場合、B2B エンジンには既に適切にシャットダウンされていても、WebLogic Server はハングすることがあります。詳細については、BEA WebLogic Server のマニュアルを参照してください。

索引

A

Application Integration でのイベント発生時の問題 2-19

B

B2B Integration

PARTY_IDENTIFIER エラー 2-12
ナビゲーション ツリー 2-11, 2-12
バルク ロード 2-2

B2B Integration のナビゲーション ツリー
2-11, 2-12

BPM

Application Integration への失われた非同期サービス応答 2-20

JMS キュー エラー 2-17
パブリック ワークフロー 2-11
ワークフロー エラー 2-5
ワークフロー テンプレート名、検索
2-14
ワークフローのデバッグ 2-15

C

ConnectExceptions 2-8

J

JMS キュー、メッセージまたはイベントの処理エラー 2-17

P

PARTY_IDENTIFIER エラー 2-12

T

table does not exist エラー 2-8

V

view does not exist エラー 2-8

W

WebLogic Integration Studio XML エディタ
2-10

WebLogic Integration のバージョン 2-3
WebLogic.jdbc.jts.Connection exceptions
2-18

X

XML エディタ 2-10

あ

アプリケーション
サンプル 2-7
実行時のトラブルシューティング
2-13
設計時のトラブルシューティング 2-9
アプリケーション統合
イベント発生時の問題 2-19
失われた非同期サービス応答 2-20

い

移行時のトラブルシューティング 2-4
インストール時のトラブルシューティン
グ 2-1

え

エンティティ 2-11

か

カスタマ サポート ix

さ

サーバの起動、トラブルシューティング
2-7

サーバのトラブルシューティング 2-7

サポート ix

サンプル 2-7

サンプル アプリケーションのトラブル
シューティング 2-7

し

実行時のトラブルシューティング 2-23

せ

製品サポート ix

製品マニュアルの印刷 viii

前提条件 vii

た

対象読者 vii

て

ディベロッパ・センタ 2-7

テクニカル サポート ix

データベース

設計時データを別のデータベースへ移
植 2-4

と

トラブルシューティング

アプリケーションの実行 2-13

アプリケーションの設計 2-9

移行 2-4

インストールと準備 2-1

サーバの起動 2-7

サンプル 2-7

実行時の問題 2-23

トランザクション例外 2-18

は

バージョン、WebLogic Integration の確認
2-3

パブリック ワークフロー、開始 2-11

バルク ロード 2-2

ひ

ビジネス プロトコル定義 2-12

表記規則 x

表記法 x

ま

マニュアル

印刷 viii

表記規則 x

マニュアル入手先 viii

め

メモリ エラー 2-23

れ

例外

ConnectExceptions 2-8

トランザクション例外 2-18

ワークフロー開始時 2-16

ろ

ログ メッセージ 2-24

わ

ワークフロー

エラー 2-5

開始時の例外 2-16

デバッグ 2-15

ワークフロー テンプレート名、検索 2-14

ワークフローのデバッグ 2-15

ワークフロー、パブリック ワークフロー
の開始 2-11

